

無加温ハウスにおける実エンドウの4月どり栽培技術

[研究のねらい]

本県の実エンドウ栽培は、ハウス栽培と露地栽培があります。4月は両作型が切り替わる時期であり市場価格も高いことから、農業試験場では紀北地域や中山間地域でこの時期に多く収穫できる無加温ハウス栽培について、本作型に適した品種、播種日、開花促進法等を明らかにします。

[研究の成果]

- ①品種は‘きしゅうすい’を用い、10月中旬（15日頃）に播種します。栽植密度は、うね幅1.8m、1条播き、株間20cm、1穴4粒播種とします。
- ②本葉2～9葉期に電照処理（16時間日長）を行うことで開花促進され、主枝の第1花が1月20日頃、約20節で開花します（表1）。
- ③ハウス内の加温は行わず、1月初め頃、内張カーテンを被覆します。
- ④3月下旬から収穫が始まり、4月下旬までの上物収量はa当たり約160kgで、上物の割合は約84%です（図1）。
- ⑤4月の実エンドウの市場価格は、時期が遅くなるほど安くなります。a当たり粗収益を本県産実エンドウの市場価格（県農調べ、2002年）から試算すると、約16万円です。

[成果の活用面・留意点]

- ①連作する場合、夏期に太陽熱などを利用して土壌消毒を行います。
- ②ハウスを密閉すると湿度が高くなり、灰色かび病などが発生しやすくなるので、昼間は適宜換気に努めます。

表1 品種、播種日、電照の有無と開花

品種	播種日(月/日)	電照の有無	開花日(月/日)	第1花開花節位
きしゅうすい	10月16日	有	1月22日	20.4節
		無	2月13日	24.3
	10月23日	有	2月9日	20.0
		無	2月23日	23.0
	10月30日	有	2月21日	19.7
		無	3月1日	22.0
矢田早生うすい	10月16日	無	12月7日	8.0
	10月23日	無	12月27日	7.9
	10月30日	無	1月18日	7.8

栽培期間：2001年10月～2002年4月

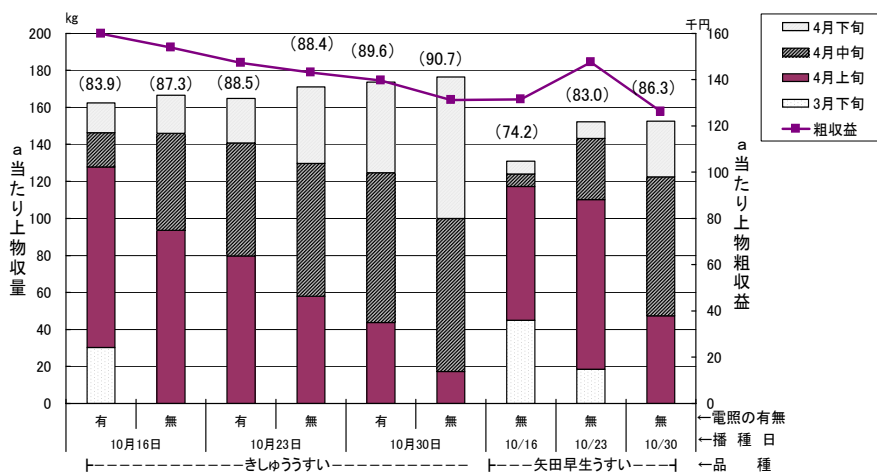


図1 品種、播種日、電照の有無と旬別上物収量・上物率・上物粗収益

2001年10月～2002年4月、育苗は7.5cmポリポット、11月26日定植
()内数字は上物率、粗収益＝旬別上物収量×旬別市場価格

実施年度：平成13年度
担当者：藤岡唯志

